

葉治 英哉（はじ・えいさい）

1、プロフィール

小説家。「戊辰牛方参陣記」で第 37 回地上文学賞。「■物見隊顛末」で第 1 回松本清張賞受賞。短編集「春またぎ」等を刊行。考証の手堅い歴史小説を発表。八戸市在住で活動。

※■…「㍻+又」(またぎ) 以下同様

<生没>

1928(昭和3)年7月18日～2016(平成28)年2月29日

<代表作>

『戊辰牛方参陣記』

『■物見隊顛末』

長編『松平容保』

長編『信義を貫いた不敗の名将 今村均』

『春またぎ』

<青森との関わり>

青森市生まれ。青森師範学校本科中退。八戸市に住み作家活動を展開した。

2、作家解説

昭和3(1928)年7月18日青森市生まれ。本名奥山英一。

昭和18年青森師範学校予科に入学。戦時中のため勤労働員に明け暮れる。

昭和21年病気のため休学。サナトリウム国立青森療養所(東郡西平内村)へ入所。同所の図書館長に推薦される。

萩原朔太郎、室生犀星、横瀬夜雨、島崎藤村らの詩集を読み、ドストエフスキ、ツルゲーネフ、トルストイ、プーシキンらロシア文学に大きな影響を受ける。

昭和23年北彰介を知る。北が提唱の同人詩誌「塔」「形象」に参加、詩、童話を発表。筆名は青柳風太。

昭和31年、東奥日報社主催の第1回「東奥小説賞」に応募、「農婦トヨ」が佳作二席となる。筆名を葉治英哉とする。最終選者が石坂洋次郎である。

恩師小野正文氏の“勉強が大切”という忠告を入れて以後 25 年間の断筆となる。

公立学校事務職員となった昭和40年、法政大学文学部(通信教育課程)入学。卒業論文は「井原西鶴『世間胸算用』」であった。担当教授から、論文の形をなしていないが、小説としては面白かったとの評をえ、小説書きの素質があるのかと思った。

昭和60年、東奥日報社主催の第9回「石坂洋次郎文学奨励賞」に「山女の顛末記」が佳作二席入賞。同第10回では「よみがえる夏」が佳作一席となり、入選作なしのため東奥紙上に掲載される。20 数年ぶりの復活である。以後、精力的な執筆活動が展開される。

平成元(1989)年、「戊辰牛方参陣記」で第37回地上文学賞を受賞。

平成6年「■物見隊顛末」で第1回松本清張賞受賞。第1回にふさわしい佳編との評をかちえた。同年8月、戊辰シリーズ3作を収めた「■物見隊顛末」が文芸春秋より上梓された。受賞後、「オール読物」「別冊文芸春秋」「歴史読本」誌上に■シリーズや幕末維新の歴史小説・評論を発表。

他に平成9年、幕末の群像をえがく書下ろし長編「松平容保」。平成11年、「評論今村均 信義を貫いた不敗の名将」を出版。“聖将”の人的魅力を440頁の大冊にまとめた。(2冊ともPHP研究所刊)また「春またぎ」(平成13年・文芸春秋刊)は「■物見隊顛末」以降の■ものをまとめたものである。

3、資料紹介

○『■(またぎ)物見隊顛末』

図書

1994(平成6)年8月10日

195mm×133mm

短篇小説。第1回松本清張賞受賞作。戊辰戦争シリーズ第2作目。戊辰戦争に物見隊として巻きこまれた南部領のマタギたち3人に焦点をあて、敵地秋田領

への潜入から脱出、その戦後までを描いた力作。マタギ社会がよくとらえられ、ユーモア感覚もすばらしい。